

前回（第7回）委員会における主な意見

◆「4-1 基本理念と基本方針」、「5-1 全体計画及び地区区分計画」について

<防災・安全安心>

- 史跡の保存活用は防災に配慮した「安心安全」も課題となる。そのキーワードを入れた方が良い。市民が安全、安心、快適に利用できる史跡公園になると良い。（北野委員長）
- 「市民や観光客が安全に史跡を楽しむための整備」という項目が必要。（菊池副委員長）
- 安全に関わる部分を10年間で最優先に着手すべき。崖の不安定とその原因である植生の問題がある。特に崖は放っておくと史跡自体が削られていくので最初に着手すべき。（今野委員）

<保存、活用>

- 基本方針について、活用整備に偏った印象を受けるのでバランスを考えてほしい。傷みかけている遺構や道路と石垣が近接している問題もあり、確実な保存整備が必要。（北野委員長）
- 「整備基本計画」の名称だとハード面重視の計画という印象が強い。まちづくりや地域の人材活用といったソフト面も項目立てし、保存活用のための整備基本計画であると提示したい。（馬場委員）
- 回遊性の向上や情報提供などソフト面の整備でもボランティアガイドはカギになる。（北野委員長）
- 来場者、観光客が何か体験できるような体験型がリピート率を上げる。シティセールスとして重要（山田委員）

<大手門復元>

- 大手門や巽門の復元整備について、課題を整理し実現化に向けたプロセスを具体的に文章化する必要がある。（菊池副委員長）
- 市道仙台城跡線の取扱いを計画に書かないと、市民も大手門復元がなぜ進まないのか分からない。その点を書くか否かもう一度検討してほしい。（藤澤委員）

<回遊性>

- 拠点間の移動を誘導するための全体的な回遊ルートを先に考えた上で整備して欲しい。（稲葉委員）
- 本丸だけでなく、二の丸、三の丸と拠点を広げていくのは非常に良い。（小齋委員）

<整備イメージ>

- 最初の10年間で実現可能な計画にするため、具体的な整備イメージを持てるような部分が欲しい。市民にもわかりやすく示す必要がある。（庄司委員ほか）
- 整備イメージの検討時には、追廻など青葉山公園のエリアも絵の中に入れて欲しい。（北野委員長）

<整備区域の追加>

- 登城路整備ゾーンの中に「造酒屋敷」整備区域を設けるべき。（藤澤委員）

<用語の修正>

- 第5章5-1(1)「全体計画」中の「廃城期」は「幕末期」とする方が適切。（菊池副委員長）